

## コラム⑨ 「補聴器は、早期装用が吉」

### ～補聴器を早めに装用すると、こんなメリットが！

今までのコラムは、子供さん中心の内容でした。  
今回からは、がらりと趣向を変えますね。

「補聴器」についてです。

まずは、驚きのデータから…

日本補聴器工業会およびテクノエイド協会のデータでは、**難聴者の国民に占める割合は、日本は11.3%（国内推計約1430万人）**であり、これは、イギリスの9.7%、ドイツの12.1%、フランスの9.3%、アメリカの10.6%と大差はありません。

しかし！

補聴器の使用率は、日本は13.5%（国内推計約200万人）であり、これは、イギリスの42.4%、ドイツの34.9%、フランスの34.1%、アメリカの30.2%と比べ、著しく低いのが現状です。

日本人は、「補聴器を敬遠」する傾向があるのです。

どうしてでしょう？

日本人は、「難聴者に寛容」？  
…これは違うような…

日本人は、補聴器の「見た目」を嫌うから？  
…これはあるかもしれませんね。

それを知るために、もう一つのデータを示しますね。

補聴器使用者の「満足度」は、日本は39%であり、これもイギリスの70%、ドイツの77%、フランスの84%、スイスの81%、イタリアの79%と比べ、著しく低いのです。

…これが原因ですね。

補聴器を使っている人の「満足度」が低いので、使用率が低くなり、さらにその話を聞いた他の難聴者も、「補聴器をするのはやめようかな…」。

これでは、負の連鎖になってしまいますね。

実際、当科の外来を受診された患者さんに、私がいくら補聴器をお勧めしても、『ほかの人が、「補聴器はうるさい」と言っていたから…』と、装用に積極的になってくれないケースをよく経験します。

補聴器販売店や販売員の「実力差」、「収益第一主義」、さらには使用する本人やその家族の補聴器に対する知識不足等、日本の補聴器をとりまく環境は、まだまだ、マダマダ、問題点が多いと思います。

私たち耳鼻いんこう科医も、今までは積極的に補聴器にかかわってこなかった側面も否めず、平成17年より、日本耳鼻咽喉科学会による「補聴器相談医」制度が開始されました。

補聴器を希望する者は、まず耳鼻いんこう科を受診し、「補聴器相談医」が診察を行い、記入した「補聴器適合に関する診療情報提供書」を「認定補聴器専門店」に持参し、「認定補聴器技能者」が補聴器を調整、販売する流れを早く標準化していくべきと考えています。

(詳しくは、コラム⑩を参照ください。)

さてさて、前置きが長くなってしまいましたね。

人間は残念ながら、年齢を重ねていくと少しずつ耳の聞こえの神経に「老化」が起こり、聴力が低下してきます。

人によって程度に差こそあれ、避けては通れない道なのです。

それでは、補聴器はどのくらいの聞こえになったら考えればよいのでしょうか？

数字で言えば、「目安として、平均 40dB（デシベル）以上になってきたら（ちなみに「正常」は 25dB 以下）」ですが…

全く、ピンとこないですね。

それでは、簡単に言うと、「聞こえにくい」と思った時が装用開始のタイミングです！

えーっ！！  
そんなに早く！？

そうなんです。

補聴器は、「なるべく早く」使い始めた方がよいのです。

「いよいよ聞こえなくなってきた…」まで待ってはいけません！

「補聴器を使い始めると、聞こえがさらに悪くなるのでは？」…それは、迷信です！  
補聴器を正しく使っている限り、そのようなことはありません。

補聴器を早く使い始めなければならない理由で最も大切なのは、「言葉の聞き取りの能力」の低下を防ぐためです。

耳の聞こえが悪くなってくると、脳がその状態に慣れてしまいます。

脳が、音の反応に「鈍感」になってくるのです。

例えば、人やテレビの話し声が「音」としては聞こえているのに、「さしすせそ」と言っているのか「たちつと」と言っているのか聞き分けにくくなるのです。

「音は聞こえるけど、何を言っているのかわからない…」  
そんな状態です。

残念ながら、補聴器は「音を大きくする機械」です。

どんなに高額の物を購入しても、「言葉の聞き取りを改善する機能」はありません。

言葉の聞き取りをよくするために、便宜上、補聴器のボリュームを上げざるを得ません。

それが、「補聴器はうるさい」と感じる一因となるのです。

すでに高度な難聴があると、「補聴器が合わせにくく」なるのです。

一度失われた「言葉の聞き取りの能力」は、残念ながら改善しません。

しかし、補聴器を装用することで、「言葉の聞き取りの能力の悪化の予防」が出来る  
ことが分かっています。

これが補聴器を早めに使い始めた方が良い、一番の理由です。

その他にも、最近有名になりましたが、補聴器の装用が「認知症の予防」になることが分かりました。

難聴で「音刺激」がなくなってくると、認知症が進行しやすくなるようです。

またコラム⑫で詳しくお話ししようと思っておりますが、補聴器には「耳鳴りの改善効果」  
もあります。

加齢にともない難聴が進行すると、「耳鳴り」を訴える方も増加します。

補聴器の早期装用で、症状の改善が期待できます。

以上で本題はおわりですが、皆さんの「補聴器」への認識を改めるべく、私が昔勤務していた病院で行っていた補聴器外来で、担当者がよく口にしていた言葉で締めくくりたいと思います。

## 『補聴器は、リハビリの道具です。』

補聴器は、あくまで「道具」です。

そもそも使いこなせるようになるのに、少々時間がかかるのです。

耳につけたとたん、いきなり「昔と同じように聞こえる」はずはありません。

なぜかという、聴力が低下した状態に、すでに「脳」が慣れてしまっているからです。

補聴器で周囲の音を大きくして入れると、「やかましい」「雑音が多い」と感じるのは、このためです。

これは、いくら高額な補聴器を購入しても同じです。

「補聴器を通して聞こえる音」に、「脳が慣れて」いかなければなりません。

この期間が、だいたい「3か月」かかります。

その間は、うるさくても地道に補聴器を使い続けます。

もちろん、なるべくうるさくないように補聴器の調整を行います。

補聴器を購入したものの、その後使わなくなった方の大部分は、この「3か月」の辛抱が**来ていないパターン**です。

補聴器店が、この「補聴器に慣れるための期間」について、本人にあまり説明していない場合もよく見受けられます。

結果として、『補聴器を購入した3人に1人が、補聴器を「タンスの肥やし」にしてしまっている』という悲しい現実となっているのです。

この「慣れるための期間」が過ぎると、**脳が、「補聴器を通じて聞こえる音」に慣れてきます。**

これ以降、補聴器の本来の性能が発揮されるのです。

今回はここまで。

次回は、「補聴器外来について」です。

当院で行っている、「補聴器外来」を紹介いたします。

補聴器購入の際に使える制度についても、お話ししますね。